

第一種使用規程の承認に係る申請案件の審査状況

1. ご審議いただく案件

名称【申請者】	使用等の内容	検討状況		承認の状況			
		農作物 分科会	総合 検討会	カルタヘナ法		食品衛生法 又は飼料安全法	
				隔離ほ場 又は 隔離飼育 区画	一般利用	食品	飼料
1 緑色蛍光ペチュニア (<i>eYGFPuv</i> , <i>Petunia x hybrida</i>) (Snow4) 【株式会社ハクサン】 【NECソリューションイノベータ株式会社】	隔離ほ場における栽培、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為	2022年 12月6日 2023年 2月8日 7月26日	2023年 11月29日	—	—	—	—
2 チョウ目害虫抵抗性ダイズ (<i>cry1A.2</i> , <i>cry1B.2</i> , <i>Glycine max</i> (L.) Merr.) (MON94637, OECD UI: MON-94637-8) 【バイエルクロップサイエンス株式会社】	隔離ほ場における栽培、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為	2023年 7月26日 10月4日	2023年 11月29日	—	—	—	—
3 除草剤ジカンバ耐性セイヨウナタネ (改変 <i>dmo</i> , <i>Brassica napus</i> L.) (MON94100, OECD UI: MON-94100-2) 【バイエルクロップサイエンス株式会社】	食用又は飼料用に供するための使用、栽培、加工、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為	2022年 9月29日 12月6日 2023年 2月8日 7月26日 10月4日	2023年 11月29日	2020年 6月	—	2022年 2月	2022年 3月

注1：「承認状況」の「カルタヘナ法」欄は、第一種使用規程が承認された年を記載しており、「—」は未承認であることを示す。
また、農作物の「隔離ほ場」欄における「免除」は、トウモロコシについては隔離ほ場試験が不要と判断されたもの、スタック系統については親系統と比較し形質間の相互作用が示されていないことを確認しているものであることを示す。

注2：「承認状況」の「食品衛生法又は飼料安全法」欄は、安全性が確認された年又は所定の手続を行った年を記載しており、「—」は未承認であることを、「○」は安全性が確認されたもの同士の掛け合わせであることを示す。
ただし、「—」には、花きや昆虫など、食用や飼料用に供さない場合も含まれる。

審査番号1	品目の概要			
遺伝子組換え生物の名称	緑色蛍光ペチュニア (<i>eYGFPuv, Petunia x hybrida</i>) (Snow4)			
申請者	株式会社ハクサン、NECソリューションイノベータ株式会社			
使用等の内容	隔離ほ場における栽培、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為			
	野生動植物等の特定	影響の具体的内容	影響の生じやすさ	生物多様性影響の有無の判断
競合における優位性	特定されず	—	—	無しと判断
有害物質の産生性	アレロパシーにより隣接する植物に作用	検討では、レタス苗の根及び胚軸の伸長を阻害することが確認された。	宿主と遺伝子組換え体との間で統計学的有意差は見られなかった。	無しと判断
交雑性	特定されず	—	—	無しと判断
その他特記事項	○ 特になし			

審査番号2	品目の概要			
遺伝子組換え生物の名称	チョウ目害虫抵抗性ダイズ (<i>cry1A.2, cry1B.2, Glycine max</i> (L.) Merr.)(MON94637, OECD UI: MON-94637-8)			
申請者	バイエルクロップサイエンス株式会社			
使用等の内容	隔離ほ場における栽培、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為			
	野生動植物等の特定	影響の具体的内容	影響の生じやすさ	生物多様性影響の有無の判断
競合における優位性	特定されず	—	—	無しと判断
有害物質の産生性	チョウ目昆虫	Cry1A.2蛋白質及びCry1B.2蛋白質の発現によりチョウ目害虫抵抗性が付与されている	慣行農業による殺虫剤散布等の防除の影響を超えるものではないと考えられるため、チョウ目昆虫に影響が生じるとは考えられない	無しと判断
交雑性	ツルマメ	ツルマメ集団中に <i>cry1A.2, cry1B.2</i> 遺伝子が浸透し定着する可能性が考えられた	ツルマメに本組換えダイズの導入遺伝子が浸透する可能性は極めて低い	無しと判断
その他特記事項	○ 特になし			

審査番号3	品目の概要			
遺伝子組換え生物の名称	除草剤ジカンバ耐性セイヨウナタネ (改変 <i>dmo</i> , <i>Brassica napus</i> L.) (MON94100, OECD UI: MON-94100-2)			
申請者	バイエルクロップサイエンス株式会社			
使用等の内容	食用又は飼料用に供するための使用、栽培、加工、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為			
	野生動植物等の特定	影響の具体的内容	影響の生じやすさ	生物多様性影響の有無の判断
競合における優位性	特定されず	—	—	無しと判断
有害物質の産生性	特定されず	—	—	無しと判断
交雑性	特定されず	—	—	無しと判断
その他特記事項	○ 特になし			